

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	165人	社会	165人	数学	165人
	理科	165人	英語	165人		

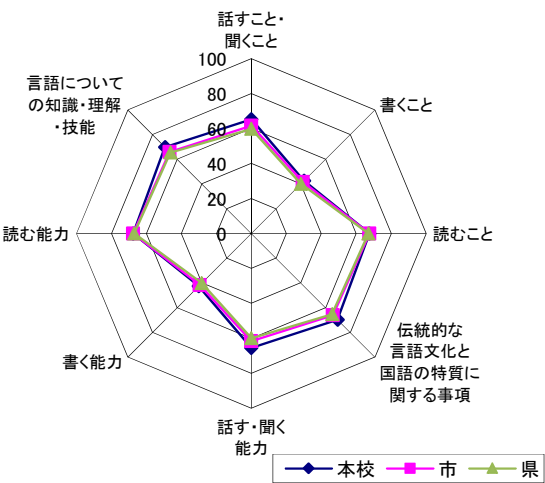
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	65.4	61.6	59.9
	書くこと	42.6	41.7	40.1
	読むこと	67.6	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.8	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	65.4	61.6	59.9
	書く能力	42.6	41.7	40.1
	読む能力	67.6	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	69.8	66.1	65.4



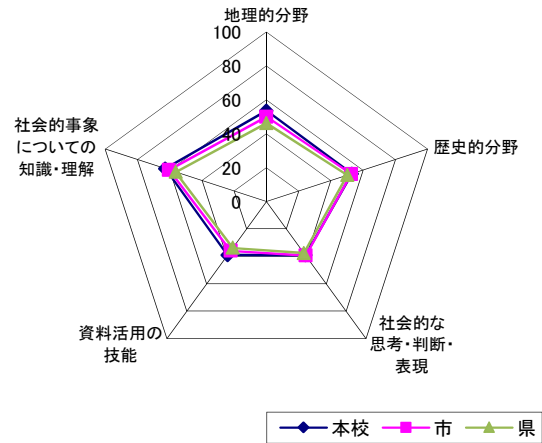
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は65.4%で市の平均を3.8ポイント上回った。 ●相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる問題の正答率が低い。市の平均を上回っているものの、記述式でまとめることができていない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・表現の仕方や根拠の確かさに注意して聞き、自分の考えを広げる活動を行っていく。 ・問題意識を持って相手の話を聞くことに積極的に取り組む姿勢を養っていく。
書くこと	○考えの根拠を明確にして鑑賞文を書く問題では、市の平均を5.3ポイント上回った。 ●友達の意見を参考に、鑑賞文の最後の段落を書き直す問題が市の平均から7.1ポイントと大きく下回っている。	・相手意識・目的意識をもって、自分の考えをまとめる活動を行っていく。 ・書いた文章を読み返し、推敲して書く活動を行っていく。
読むこと	○文学作品の特徴を捉える問題が、市の平均を3.8ポイント上回った。 ●文章中の内容を整理し、要旨を捉える問題が市の平均より3.7ポイント下回った。	・文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取っていく活動を行っていく。 ・文章のまとまりを捉えて、全体を要約する力を身に付けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○歴史的仮名遣い・漢字の成り立ち・文節の分け方に関する問題での正答率が高い。 ●カタカナを漢字に直す問題の正答率が低い。	・漢字テストを継続的に行い、漢字の読み書きに一層習熟させる。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	53.6	50.0	46.2
	歴史的分野	53.0	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	39.2	39.4	37.6
	資料活用 の技能	39.1	35.9	33.8
	社会的事象についての知識・理解	62.8	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

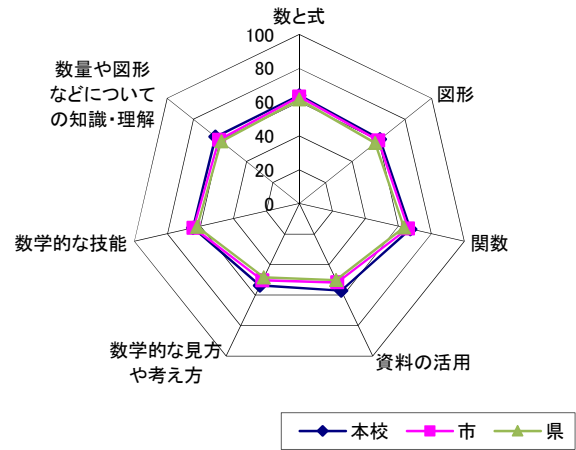
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○正答率は53.6%で市の平均を3.6ポイント上回った。 ○地図の読み取りにかかわる問題の正答率が、それぞれ市の平均に対して、6.0～19.3ポイント高い。 ●東南アジア諸国の輸出品の変化について考える問題が市の平均から－3.7ポイント、資料からオーストラリアの貿易の変化を読み取る問題が－2.1ポイントと、資料を活用し、変化を読み取る問題の正答率が低い傾向が見られる。	・歴史的分野の授業で、東南アジアの変化の様子に触れるなどしながら、理解を深める活動を行っていく。 ・複数の資料をもとに変化の傾向を読み取る活動を、授業で多く取り入れる。
歴史的分野	○正答率は53.0%で市の平均を0.4ポイント上回った。 ○律令制が確立していく時代の問題の正答率が、それぞれ市の平均に対して、4.9～7.6ポイント高い傾向にある。 ●年代を表し方の問題が市の平均から－12.5ポイントと大きく下回っている。また、鎌倉幕府についての問題が市の平均から－3.2～－4.6ポイントと、低い傾向にある。	・歴史の授業初期の内容については、理解ができていようすであるため、各時代の政治の特徴などを比較し、より理解を深める活動を多くしていく。 ・幕府による政治を、比較しながら整理することで、幕府政治の違いや特徴を把握する活動を行っていく。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	64.1	63.3	61.5
	図形	61.0	59.8	57.4
	関数	67.4	65.9	63.4
	資料の活用	57.1	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	53.7	50.4	48.5
	数学的な技能	64.5	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	63.4	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

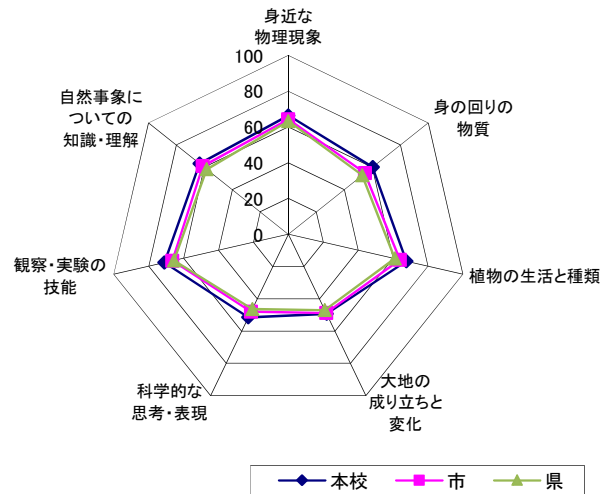
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数量の関係を表す図から方程式をつくり、答えを求める問題では、県の平均を7.8ポイント、市の平均を4.3ポイント上回っており、等式関係は理解されている。 ●与えられた図と式から、考えを説明する問題では、県や市の平均は上回っているものの正答率が13.8%であり、多くの生徒が苦手としている。	・授業始めの小テストを継続して行い、基本的な計算技能を身に付けさせる。 ・普段の授業から、根拠をもとに自分の考えを説明させる活動を取り入れていく。
図形	○対称の軸が垂直二等分線になっていることを答える問題では、県の平均を18.5ポイント、市の平均を15.2ポイント上回っており、対称の軸や垂直二等分線の特徴について理解されている。 ●三角形の2辺が重なるように折る、折り目を作図する問題では、県の平均を5.1ポイント、市の平均を9.2ポイント下回っている。	・作図の授業では、作図のやり方だけでなく、どのような点の集まりかということ考えさせる活動を取り入れていく。 ・おうぎ形の面積の求め方は、公式だけでなく、円から求められることを理解させることで定着を図れるようにする。
関数	○比例のグラフから式を求める問題では、県の平均を7.0ポイント、市の平均を2.6ポイント上回っており、グラフの読み取りについては理解されている。 ●比例の関係について、yをxの式で表す問題では、市の平均を0.7ポイント下回っている。	・比例の関係について、表・式・グラフから特徴を読み取れるような活動や、それぞれの関係性について考えさせるような活動を取り入れていく。
資料の活用	○相対度数を求める問題では、県の平均を16.4ポイント、市の平均を11.6ポイント上回っている。 ●ヒストグラムを読み取り、その考えを説明する問題では、県・市の平均は上回っているものの、正答率が21.1%であり、多くの生徒が苦手としている。	・様々な知識を身に付けさせたいので、資料の読み取りを行い、自分なりの考えを説明させる活動を取り入れていく。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	66.4	64.3	63.2
	身の回りの物質	60.3	54.8	52.8
	植物の生活と種類	67.7	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	49.3	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	51.5	48.0	46.4
	観察・実験の技能	71.0	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	63.4	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

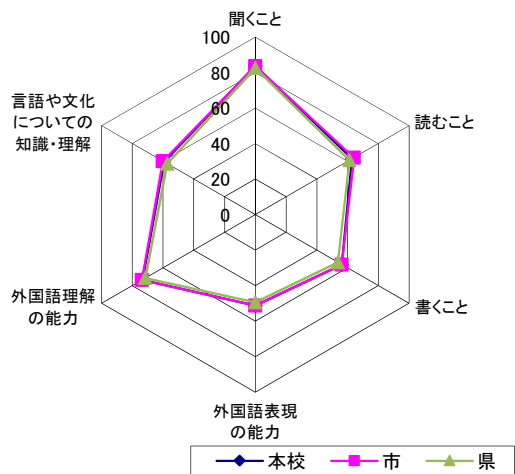
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域正答率は66.4%と市や県を上回っている。特に「力と圧力」における手が物体を支えている力の表し方は県を19.4ポイント上回っている。 ●凸レンズに入る光の進み方・弦の張り方、はじき方による音の変化は市・県の平均とともに下回っている。	・凸レンズの光の進み方について、作図の時間を多く取り、くり返し光が進む法則を理解できるようにする。 ・ICT機器などを用いて、実際に音を聞いてみたり、音の波形を提示したりして、理解しやすくする。
身の回りの物質	○領域正答率は60.5%と市や県を上回っている。特に「物質のすがた」における水素の性質では14.0ポイント、水上置換法では体積を正しく測れない説明は21.1ポイント県平均より上回っている。また「状態変化」でも9.2ポイント県より上回っている。 ●水溶液の溶質を表す粒子モデルは県・市ともに下回っている。	・水溶液ではどの層も正答率が低く、D層は8.1%と内容別では一番低い。ため、水溶液の粒子モデルを実際に作成し、視覚的に提示することによって、理解しやすくする。
植物の生活と種類	○領域正答率は67.7%で県より6.6ポイント、市よりやや上回っている。特に「植物の体のつくりとはたらき」における蒸散量の計算は18.9ポイント、「植物の仲間」における裸子植物の名称では10.9ポイント県より上回っている。 ●適切でないスケッチの修正すべき点では県・市ともに3ポイントほど下回っている。	・観察等の時間において、正しいスケッチの仕方を指導し、スケッチの時間を多く取るようにして、スケッチの仕方を身につけさせる。
大地の成り立ちと変化	○領域正答率は49.3%と市や県をやや上回っている。特に「火山と地震」における震度やマグニチュード・主要動を答える問題では約10ポイント県より上回っている。 ●鉱物の種類では5.6ポイント、堆積岩の特徴を答える問題では11.7ポイント、地層から海の深さの変化を予想する問題では5.0ポイント県より下回っている。	・実際の鉱物や堆積岩を見せて興味・関心を持たせて、特徴や名前を知識として身につくようにする。 ・地層のでき方が、どんなことに活用できるのか実際の例を提示し、理解をはかる。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	83.8	83.6	82.6
	読むこと	63.0	64.2	61.2
	書くこと	56.2	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	51.2	51.2	49.4
	外国語理解の能力	73.4	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	59.5	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は83.8%で、県平均より1.2ポイント、市平均より0.2ポイント上回っている。 ●設問別正答率を見ると、「対話文の聞き取り」が、県平均より2.8ポイント、市平均より3.2ポイント下回っている。	・授業において、「対話文の聞き取り」を中心に、「聞き取る活動」に取り組ませる。 ・スキットなど、ペアで対話させる活動を通して、対話文の音声指導の充実を図る。 ・現在実施しているワークシートを使った聞き取り活動に加えて、指導書に掲載されている資料も活用して、対話文の聞き取り活動の機会を増やす。
読むこと	○平均正答率は63.0%で、県平均より1.8ポイント高いが、市平均より1.2ポイント下回っている。 ●設問別正答率を見ると、「まとまりのある英語の読み取り」が、県平均より1.3ポイント、市平均より2.7ポイント下回っている。	・「まとまりのある英語の読み取り」では、様々な分野の長文に触れさせ、物語のあらすじや説明文の要点をとらえたり、伝言や手紙などから書き手の意向を理解したり、いろいろな情報を読み取るなどして、英語の読み取り能力の向上を図りたい。 ・英語を読み取る力を付けるためには、語彙力の向上の向上が不可欠であるので、単語トレーニングワークシートに日々取り組ませていきたい。
書くこと	○平均正答率は56.2%で、県の平均より2.4ポイント高く、市平均と同等である。 ●設問別正答率を見ると、「テーマに基づく英作文」が、市平均より0.2ポイント低い。	・「聞いた英文を書く」、「読んだ英文をまとめて書く」といった統合的な活動をさらに充実させたり、生徒の身近な話題など、様々な場面やテーマに沿った英作文に取り組ませ、書く能力の向上を図りたい。 ・自分の考えを書くための土台となる力を育むためにも、4月から始めた1分間スピーチを継続していきたい。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の設問では、県が65.7%、市が68.7%なのに対して、本校では78.8%と授業に対して意欲的に取り組んでいる。A層からD層までの層も県や市の平均を上回っている。特に、A層では89.5%の生徒が肯定していて、意識の高さを感じられる。

○「好きな教科は国語」の設問では、県や市は67%程度なのに対して、本校は75%近い。本校は、読書が好きな生徒が多く、学校での朝の読書への取り組みも積極的である。また、「国語は将来のために大切だ」と答えている生徒は、A層からD層まですべて90%を上回っており、目的意識が高い。

○「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の設問では、県が82.5%、市が75.5%なのに対して、本校では94.7%である。特に、A層、B層ではどちらも100%と高い。目的をはっきりとさせることで、理解を深めていると考えられる。

○学ぶ意欲に対する項目では、県や市の平均を上回っているものが多く、意欲を感じられる。意欲を高めていくための方策をこれからも進めていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の設問では、県が71.5%、市が67.2%なのに対し、本校では57.6%と低い。学校での授業内容を復習しないと、理解が深まらない。毎日の復習をきちんと行うよう指導を継続する必要がある。

●「ゲームをする時間」の質問で4時間以上がC層D層合わせて39.8%もいる。A層B層の合計は5.2%なので、かなり多い。家庭での過ごし方を考える必要がある。学校から積極的に情報を発信して、保護者とともに見直していく必要がある。

●全体的に家庭学習の時間が少ない。平日は1時間から2時間が多く、休日は2時間から3時間が多。C層D層は休日でも1時間から2時間が多。きちんと学習する習慣を身につけさせる必要がある。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭の学習時間の確保	定期的に学習プリントを与え、学習する習慣を身につけさせる。(学力向上ノート国社数理英の5冊)	学習時間が増え、理解が深まった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習した基本的な内容が定着していない。	学習する時間を増やし、基本的な内容をしっかり理解すること。	学校で与える学習プリントの他に、自分で学習する内容を考え、ノートにまとめる。(自主学習ノート1冊)